
君がいない

いおすけ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
君がいない

【コード】
N7596C

【作者名】
いおすけ

【あらすじ】
失うまで気づかなかったこの想い、君との想い出は季節が変わっても色あせない。

好きになるのは一瞬なのに
忘れ去るには

こんなに時間がかかるのはなんでだろう。

昔、友達が言った

「シヨツクは思い込みの2乗に比例する。」

言った後、得意顔だった友を

僕は哀れみの表情で見返したっけ。

失うまで気づかなかった

自分勝手な思い込み。

別れの足音に気づかずに

ずっと一緒にいられると

信じていた日々。

冷たくしたこともあつたけど

君がくれた優しさは

いつも暖かく

僕の心のトゲを

跡形もなく溶かした。

季節は秋

あれからもう1年が経過していた。

人の細胞は

2年で全部入れ替わるって
聞いたことがあるけど

僕は半分だけでも
新しい自分になれているんだろうか。

あのとき

全身で君を愛した僕は
半分になってしまったのだろうか。

君に初めて触れた日

そして最後に触れた日

一緒に過ごす時間は
光の速度で過ぎ去って

また会える時を待つ長い時間が
愛をより大きく
そして強くした。

そして今
あんなに長く感じた時間さえ
遠く輝いて見える。

季節が変わり
思いがセピア色に変わっても
白い肌

その香

君を思うとき

そこだけが鮮やかに色を取り戻す。

過ぎ去っていく時間は僕を変えていくけど
変わらない想いがある。

君に会いたい。

初めて出会ったコンビニ

スイーツの棚

君がいた景色は変わらないけど

君はもういない

もうどこにも売っていない

豆乳風味。

ダイエット効果が怪しい

豆乳風味。

風味って言っている時点で

豆乳じゃない

豆乳風味。

君のいた場所に

新しいフレーバー。

そして
もう君はいらない。

(後書き)

最後まで読んでいただいて
ありがとうございます。

他の作品も読んでいただいた方には
大変申し訳ありませんが
いつものパターンです。
今回は恋愛小説風味です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7596c/>

君がいない

2010年12月31日06時03分発行